

8月10日

殉教者執事ローレンス

Laurentius

(? ~ 258)

～ローマ時代の施しの聖者～



「ローマの
聖ラウレンティウス」

カルロ・クリヴェッリ 画

人名辞典などにはラウレンティウスと表記される彼は、ローマ時代の殉教者である。

彼は三世紀、スペインに生まれた。サラゴサの学校を卒業したのち、教皇シクストゥス 2 世のもと、ローマ教会の 7 執事(助祭)の一人となる。そしてローマ教会の財産を管理し、貧しい人や病気の人などに物資を分配していた。

258 年、ローマ皇帝ヴァレリアーヌスは聖職者を死刑にするキリスト教迫害の法令を出した。そしてその翌年、教皇シクストゥス 2 世はミサ中に逮捕され、斬首される。さらに皇帝はローレンスに対し、教会の財産をすべて没収するとの通告を出す。ローレンスは皇帝に対し、財産を回収するための猶予を三日間欲しいと願い出た。そして彼はその三日の間に、すべての財産を貧しい人、困っている人に配ってしまう。

三日の後、皇帝に呼び出されたローレンスのまわりには、たくさんの貧しい人々がともについてきた。そしてローレンスは、財産を要求する皇帝に対し、このように伝えた。

「この貧しい人々が教会の宝です。この人々の姿の中に、最高の宝であるキリストが生きておられるのです」

これを聞いた皇帝は、馬鹿にされたと感じ、すぐ

にローレンスを処刑するように命令する。それもただの処刑ではなく、鉄板を持って来させ、その上にローレンスを寝かせて、苦しめるために、とろ火でじりじりと焼き殺すというものだった。

だがローレンスは悲鳴をあげるどころか、刑吏に対して、「もう背中の方は十分に焼けたようです。どうでしょう、そろそろ向きを変えてみては」、「もうすっかり焼き上がったようです。召しあがってみられたらどうですか」と声をかけたという。

コンスタンティヌス 1 世の時代になって、彼の墓の上に聖ラウレンティウス大聖堂が建てられた。この大聖堂はローマの七大聖堂の一つとして現存している。また彼の遺骨は珍重され、外国との戦争の際の守護者ともされた。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者執事ローレンスに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン